

## 第4回 全体研究会

日 時：2014年11月14日（金）18：00～20：00

テーマ：「中国の構造的な矛盾 官民関係を中心に」

報告者：黄宗良（北京大学国際関係学院教授）

司 会：高橋伸夫（慶應義塾大学）

場 所：大学院校舎 8 階 産業研究所会議室

使用言語：中国語

報告者はまず改革開放以来の30年間の歴史を概観したあと、現在の中国が抱える様々な国内問題を中心に話を進めた。とりわけ執政党である共産党と一般民衆の間に存在する対立関係が、他の矛盾を引き起こしている点について丁寧に分析した。官民対立もまた中国共産党第十八次全国代表大会（18大）以降、指導者層が最も危機意識を持つ分野であると、黄氏は指摘した。指導者層もそれを意識し、現在は「群衆路線の常態化」を打ち出している。根本的な点はやはり法の尊重であり、「科学的な立法、厳格な執法、公平の司法、全民が守法」の実現こそが、中国の政治的危機を打開する方策であると同氏は締めくくった。